

Google Agentspaceガイド

みなさん、こんにちは！

前回の「はじめの一步教室」に続き、ここではGoogle Agentspaceをさらに深く理解し、使いこなすための「完全攻略ガイド」をお届けします。


このガイドでは、単なる手順の解説に留まらず、各設定が持つ意味や、より実践的な活用方法までを網羅的に解説していきます。Agentspaceのポテンシャルを最大限に引き出すための知識を、一緒に学んでいきましょう！

ステップ1: 準備編 「盤石な基盤を築く」

Agentspaceという高性能な建物を建てるには、その土台となるGoogle Cloudの環境を正しく理解し、設定することが不可欠です。

1. 最重要拠点「Google Cloudプロジェクト」とは？

Google Cloudプロジェクトは、単なる入れ物ではありません。Agentspaceを動かすためのリソース、設定、権限、課金情報を一元管理する、独立した仮想空間です。


- なぜプロジェクトが必要か？
 - 環境の分離: 部署ごとや用途ごとにプロジェクトを分けることで、他のシステムへの影響を防ぎ、管理を容易にします。例えば、「人事部用Agentspace」と「開発部用Agentspace」でプロジェクトを分ければ、権限や設定が混ざることはありません。
 - 権限管理の単位: 「誰が」「どのリソースに」「何をできるか」というアクセス権は、プロジェクト単位で管理するのが基本です。
 - コスト管理: プロジェクトごとに利用料金を正確に把握できるため、コスト管理がしやすくなります。
-  アクション:
 1. Google Cloudコンソールで、目的に合った名前のプロジェクト(例: agentspace-prod-env)を作成します。
 2. 作成したプロジェクトに、請求先アカウントをリンクし、課金が有効であることを必ず確認してください。リソースを利用した分だけ料金が発生する従量課金制が基本です。


2. アクセス制御の心臓部「IAM」を理解する

IAM (Identity and Access Management) は、「認証」と「認可」を管理する Google Cloud の根幹をなすサービスです。

- **認証 (Authentication):** 「あなた(またはプログラム)は誰ですか？」を確認するプロセスです。(例: ログインIDとパスワード)
- **認可 (Authorization):** 「認証されたあなたは、何をすることが許可されていますか？」を定義するプロセスです。(例: ファイルの閲覧は許可するが、削除は許可しない)

Agentspace をセットアップするには、あなた自身に強力な「認可」、つまり**役割(ロール)**を付与する必要があります。

- **Discovery Engine Admin** ロールとは？
 - これは、Agentspace (およびその基盤技術である Discovery Engine) に関するすべての操作 (作成、削除、変更、管理) を実行できる管理者権限です。このロールがなければ、アプリケーションの作成やデータストアの設定は行えません。
-  **アクション:**
 1. Google Cloud コンソールのナビゲーションメニューから [IAMと管理] > [IAM] を選択します。
 2. [アクセス権を付与] をクリックします。
 3. 「新しいプリンシパル」にあなたのアカウント (メールアドレス) を追加します。
 4. 「ロールを割り当てる」で Discovery Engine Admin を検索し、選択して保存します。

 **ヒント:** 実際の運用では、「最小権限の原則」に従い、ユーザーには必要最小限の権限のみを付与することがセキュリティ上推奨されます。しかし、初期設定を行う管理者には、まずこの強力な権限が必要です。

ステップ2: 実践編 🚀「インテリジェントな検索体験を構築する」

盤石な基盤の上に、いよいよAgentspaceアプリケーションというインテリジェントな検索エンジンを構築していきます。

1. アプリケーションの作成

これはAgentspaceの「顔」となる部分です。ユーザーはこのアプリケーションを通じて、情報を検索します。

- ロケーション **global** の重要性:
 - 特定の国や地域にデータを置く法的要件(データレジデンシー)がない限り、**global** を選択することが強く推奨されます。これにより、世界中のどこからアクセスしても、Googleのグローバルネットワークによって最適なパフォーマンス(低遅延)が得られます。

2. 検索の核「データストア」を深く知る

データストアは、単なるデータの置き場所ではありません。様々な場所から収集した情報を、**Agentspace**が超高速で検索できるように「索引(インデックス)」を作成し、保管しておくための特別なリポジトリです。

- 主なデータストアの種類:

データストアの種類	用途・特徴
Google Drive	社内のGoogle Drive全体、または特定の共有ドライブやフォルダを検索対象にできます。最も手軽に始められます。
ウェブサイト	指定したウェブサイトのコンテンツ全体をクロールし、検索可能にします。社内ポータルやFAQサイトに最適です。
BigQuery	Google Cloudのデータウェアハウスにある構造化データを検索対象にできます。
Cloud Storage	PDF、Word、PowerPointなどの非構造化ファイルをまとめて格納し、検索対象にできます。
サードパーティ製	コネクタを利用して、SharePoint、Confluence、Salesforceなど、Google以外のサービスも検索対象にできます。

- **アクション:**

1. [データストアを作成] を選択し、あなたの組織が最も情報を蓄積している場所(例: Google Drive)から始めてみましょう。
2. 同期の設定を行います。データは一度取り込まれるだけでなく、定期的に自動で同期され、常に最新の情報が検索結果に反映されるようになります。

3. 検索体験の最適化「高度な設定」

作成したアプリケーションは、さらに細かくカスタマイズできます。

- **UIタブ:** ログの変更やブランドカラーの設定など、自社のポータルサイトのような見た目にカスタマイズできます。
- **オートコンプリートタブ:** ユーザーが検索窓に数文字入力ただけで、検索キーワードの候補を表示する機能を有効にします。これにより、ユーザーはより早く目的の情報にたどり着けます。(設定後、反映まで1~2日かかる場合があります)
- **アシスタントタブ:** (Enterprise Plusライセンスが必要) 検索だけでなく、対話形式でより複雑なタスクを実行するAIアシスタントの挙動を設定します。

ステップ3:ライセンス編 「全社展開への道筋」

作成したAgentspaceを従業員が利用するには、ライセンスの割り当てが必要です。戦略的に計画しましょう。

1. ライセンス階層の選択

どちらのライセンスが組織に最適か、機能の違いを明確に理解しましょう。

機能	Agentspace Enterprise	Agentspace Enterprise Plus
統合検索	✓	✓
ドキュメント要約	✓	✓
人物検索	✓	✓
AIアシスタント	-	✓
アクション実行	-	✓
カスタムエージェント	-	✓

- アクション実行とは？「〇〇さんとの打ち合わせを来週火曜に設定して」と指示するだけで、AIがカレンダーに予定を登録してくれるような機能です。
- カスタムエージェントとは？「新入社員向けのオンボーディング資料をすべてリストアップして」といった、組織固有の定型業務を自動化する専用のAIエージェントを作成できる機能です。

2. ユーザーへの割り当て戦略

- 手動割り当て:
 - 最適なケース: パイロット導入(特定部署での試験運用)、小規模チーム、ライセンスコストを厳密に管理したい場合。
 - メリット: 意図しないユーザーへのライセンス消費を防ぎ、コストを正確にコントロールできます。
- 自動割り当て:
 - 最適なケース: 全社展開、大規模な組織、管理者の手間を削減したい場合。
 - メリット: ユーザーはアクセスするだけで自動的に利用開始でき、管理者の割り当て作業が不要になります。
 - 注意点: 想定以上のライセンスが消費されないよう、購入するサブスクリプションのライセンス数には余裕を持たせておきましょう。

ガイドの終わりに

お疲れ様でした！

このガイドを通じて、Agentspaceを「なんとなく使う」から「理解して使いこなす」へのステップアップができたのではないのでしょうか。

1. 【基盤】プロジェクトとIAMの重要性を理解し、
2. 【構築】データストアを戦略的に設計し、
3. 【展開】ライセンスを計画的に割り当てる。

これらの知識は、あなたの組織でAI活用を推進する上で、非常に強力な武器となります。次は、カスタムエージェントの構築など、さらに高度な機能の探求へと進んでみてください。Agentspaceと共に、新しい働き方を創造していきましょう！